

平成27年度発達障害者支援開発事業 報告書

佐賀県

1. 事業要旨

本県では、発達障害児（者）の乳幼児期から成人期までの各成長段階に応じた支援事業を実施し、発達障害児（者）及びその家族が住み慣れた地域において成長段階に応じた一貫した支援が受けられる体制を整備し、もって、安定した社会生活を営むことができるようにすることを目的とし、特に青年期・成人期における支援体制を構築するため、次のとおり事業を実施している。

2. 事業報告

(1) 発達障害者就労訓練・生活訓練事業（ワークステーション）

① 事業目的

発達障害者就労訓練拠点を佐賀県庁舎内に設置し、シェアドサポートによる支援手法を開発するとともに、併せて就労継続のための生活支援や社会参加促進のための支援手法を開発する。

② 実施内容

県庁7階のワークステーションを中心に発達障害者の就労訓練を実施。

利用者は、

- ・ワークステーション内で県庁各課から発注された文書発送等の定型的な業務による訓練
 - ・「県立図書館」、「文書室」又は「県庁内の所属」に出向き、職場環境への適応も兼ねた訓練
 - ・民間事業所等で一般就労の現場に近い業務内容による訓練
- といった訓練生の状況に応じた訓練を行った。

平成27年度にワークステーションを利用した方の訓練状況等については、次のとおり。

ア. Aさん（20代男性）診断名：自閉症スペクトラム障害（利用終了）

利用開始日：H26.11.4 利用終了日：H27.12.31

県庁内（ワークステーション内や庁内各課）、県立図書館等にて訓練を実施するとともに、3社で企業実習を積み、**一般就労**に結びつく。

イ. Bさん(20代女性) 診断名:自閉症スペクトラム障害(利用終了)

利用開始日: H26.11.17 利用終了日: H27.10.4

県庁内(ワークステーション内や庁内各課)、県立図書館等にて訓練を実施するとともに、3社で企業実習を積み、**一般就労**に結びつく。

ウ. Cさん(30代女性) 診断名:自閉症スペクトラム障害(利用終了)

利用開始日: H27.1.19 利用終了日: H28.1.20

県庁内(ワークステーション内や庁内各課)、県立図書館等にて訓練を実施するとともに、3社で企業実習を積み、**一般就労**に結びつく。

エ. Dさん(20代男性) 診断名:注意欠陥多動性障害(訓練中)

利用開始日: H27.12.8

県庁内(ワークステーション内や庁内各課)、県立図書館等にて訓練を実施。
現在、本人に適した業種の職場で企業実習を行うため、複数の企業を見学している。

また、日々の就労訓練と並行して、就労に必要な生活訓練についても実施した。

具体的には、訓練生とジョブコーチとのミーティングの時間を確保し、睡眠、服薬といった体調管理や挨拶、職場でのマナーといった職業行動に関する支援などを行った。ジョブコーチにとっても、このミーティングを通して訓練生の再アセスメントができ、その後の就労訓練内容の見直しなどにも役立った。

③ 分析・考察

県庁内での訓練だけでなく、民間事業所の見学を行うことで、訓練生が就労の具体的なイメージを掴むことができた。更に、就労・生活支援員とのミーティングを毎日行うことで、1日の訓練の振り返りを行うことができ、生活行動の改善や、訓練に取り組む姿勢の向上などが図られた。

また、支援会議の場で、利用者のもつ強み・弱みについて、支援者が情報共有を図ったことで、利用者本人・保護者もその特性を認知することができた。

しかし、当該事業に参加できる生活状況に至っていない(ひきこもり等)の発達障害者(疑いを含む)が多くなっているとの関係機関からの情報もあり、そのような方々に対しては、支援機関(相談支援事業所等)との連携が重要となってくると考えられる。

(2) 発達障害者余暇支援事業

① 事業目的

一般就労している又は就労移行支援、就労継続支援（A型・B型）を利用している発達障害者に休日の活動や情報交換の場を提供し、休日の過ごし方の充実を図ることにより、職場等の定着を支援する。

② 実施内容

毎月1回、土曜日に2時間程度のグループ活動（調理実習、ボードゲームなど）やテーマトーク（テーマを設定し、持ち時間内で自分の意見を発表する）を実施し、人前での話し方、話している人への自然な気の配り方などを学んだ。

また、共通の趣味や休日の過ごし方、仕事（A型・B型、就労移行支援での訓練等を含め）に関する悩みや困り事などの意見交換や、支援スタッフから助言を行った。

（各月の実施内容）

| 回数 | 実施日 | 参加人数 | 実施内容 |
|----|-----------|------|--------------|
| 1 | H27.4.18 | 8人 | テーマトーク、ミニゲーム |
| 2 | H27.5.30 | 6人 | テーマトーク、調理実習 |
| 3 | H27.6.20 | 7人 | 自己紹介、カラオケ |
| 4 | H27.7.11 | 7人 | テーマトーク、ミニゲーム |
| 5 | H27.8.29 | 4人 | テーマトーク、Wiゲーム |
| 6 | H27.9.26 | 4人 | カラオケ |
| 7 | H27.10.17 | 6人 | レクレーションゲーム |
| 8 | H27.11.19 | 3人 | テーマトーク、ミニゲーム |
| 9 | H27.12.12 | 4人 | クリスマス会 |
| 10 | H28.1.23 | 4人 | テーマトーク、お菓子作り |
| 11 | H28.2.27 | 5人 | カラオケ |
| 12 | H28.3.12 | 6人 | テーマトーク、ミニゲーム |

③ 分析・考察

余暇支援活動参加前と参加後でストレスチェックによる数値の変化（ストレス軽減）を比較したところ、多くの参加者がストレス軽減の結果となり、充実した休日を過ごし、休日明けの就労又は訓練が円滑に実施できているものと考えられる。

また、参加者からの悩みや困り事などについては、本人の就労支援関係者（就業・生活支援センター、職業センター等の担当スタッフ）との連絡を密に図りながら、就労継続又は就職に向けての後方支援を行った。

(3) 佐賀プライドプログラム

① 事業目的

発達障害のある高等学校の生徒本人の自己認知・感情コントロール・ライフスキル向上及び障害特性に応じた適切な進路選択（大学／就職）をサポートすることで、二次障害の事前防止を図るとともに、今後社会で活躍できる人材の育成につなげることを目的とする。

② 実施内容

発達障害のある高等学校の生徒に対し、発達障害者支援の専門家による、原則月2回の指導・助言（個別／集団）を実施し、本人の自己認知・感情コントロール・ライフスキル向上及び進路選択（大学／就職）をサポートする。

平成27年度は、定員を10名に設定していたが、想定を上回る問合せ・申込みがあったため、最終的には12名を受け入れ、支援を行った。

検査も含め個別に3～5回、グループで3回のセッションを行い、障害告知・自分の障害のタイプ・自分の長所／短所についての学習や、感情の分析などに取り組んだ。

生徒たちの学習の時間帯には、保護者にスタッフが1名つき、学習内容についての説明や、保護者からの相談に応じた。

対象者のうち1名は、高校3年生であったため、受験のためにグループ活動には参加できず、個別でのセッションのみとなったが、高校側との連携もとることができ、卒業・進学につなげることができた。

③ 分析・考察

本県では、発達障害児・者の早期発見・早期療育に取り組んできたが、当該事業の周知・利用者を募集する際に、就学期（特に中高生向け）の支援策を望む声が多く聞かれたことから、就学期の支援策を更に充実していく必要があることを感じた。

当該事業は、高校生を対象として展開しているが、高校進学の際にも、進路選択を支援する当該事業のような取り組みは大変有用であると考えられるため、市町教育委員会にも積極的に働きかけを行っていく必要があると感じた。

3. 企画・推進委員会の実施状況

佐賀県の発達障害児・者に対する総合的な支援の在り方を検討するための場として、医療・保健、福祉、労働、教育分野の県内関係者が委員を務める「発達障害者支援連絡協議会」を設置している。

平成27年度の発達障害者支援連絡協議会の開催状況は、以下のとおり。

開催日時：平成28年3月10日（木） 18：30～20：00

開催場所：佐賀県庁新行政棟4階 特別会議室A

参集人数：22名

協議事項の概要：

- (1) 発達障害児・者支援に関する各機関の事業について
 - ・ 平成27年度発達障害者支援センター結 事業実施状況報告
 - ・ 大学間発達障害支援ネットワークの構築と幼保専門職業人の養成
 - ・ 発達障害者に対する雇用支援策
 - ・ 佐賀県特別支援教育第三次推進プラン
- (2) 県の発達障害児・者の支援事業について
 - ・ 佐賀県発達障害者支援体制整備事業の説明
 - ・ 平成27年度新規事業 佐賀プライドプログラムの事業説明・報告
 - ・ 平成28年度新規事業 発達障害に対する親の理解促進のための家族研修の開催
 - ・ 平成28年度新規事業 かかりつけ医等発達障害対応力向上研修の開催
- (3) 医療機関への情報照会について

(以 上)

平成27年度 発達障害者支援開発事業 成果物

1. 発達障害者就労訓練・生活支援事業

利用者の活動状況

訓練時間 9:00～16:00（休憩1時間）

県庁内の各課から依頼される業務を受注し、様々な作業を経験させ、
利用者の作業能力のアセスメントを行っている。

(1) Aさん（20代男性）の活動状況

H26.11.4～ ワークステーションの利用開始（利用終了：H27.12.31）

県庁内（ワークステーション内）や庁内各課、県立図書館等にて訓練実施

企業実習の実績 H27. 6.29～H27.7. 3 アスパラ選果場

H27. 8.17～H27.8.28 佐賀衛研

H27.11.16～H27.8.28 Aコープ佐賀ミート工場

県庁内・企業実習の経験を積み、**一般就労** に結びつく

(2) Bさん（20代女性）の活動状況

H26.11.17～ ワークステーションの利用開始（利用終了：H27.10.4）

県庁内（ワークステーション内）や庁内各課、県立図書館等にて訓練実施

企業実習の実績 H27.5.18～H27.5.29 市民活動プラザ

H27.6.29～H27.7.11 西日本高速道路サービス

H27.9. 1～H27.9.25 ケイエスケイツール(株)

県庁内・企業実習の経験を積み、**一般就労** に結びつく

1 . 発達障害者就労訓練・生活支援事業

利用者の活動状況

訓練時間 9 : 0 0 ~ 1 6 : 0 0 (休憩 1 時間)

県庁内の各課から依頼される業務を受注し、様々な作業を経験させ、利用者の作業能力のアセスメントを行っている。

(3)Cさん(30代男性)の活動状況

H27.1.19 ~ ワークステーションの利用開始 (利用終了 : H28.1.20)

県庁内 (ワークステーション内) や庁内各課、県立図書館等にて訓練実施

企業実習の実績 H27. 6.29 ~ H27. 7. 3 アスパラ選果場

H27. 7.27 ~ H27. 8. 7 日之出印刷

H27.11.16 ~ H27.12.26 中島製作所

県庁内・企業実習の経験を積み、**一般就労** に結びつく

(4)Dさん(20代男性)の活動状況

H27.12.8 ~ ワークステーションの利用開始

県庁内 (ワークステーション内) や庁内各課、県立図書館等にて訓練実施中

現在、本人に適した業種の職場で企業実習を行うため、複数の企業を見学している。

1 . 発達障害者就労訓練・生活支援事業

利用者アンケートの結果まとめ（インターンシップ事業）

問 発達障害者インターンシップ事業を利用した感想を教えてください。

- ・ 今後就職するために、自分が苦手なところを見つけてどのように対策するかなど、実際の職場の雰囲気で作業するのはいい経験でした。
- ・ 自分に合っていること（作業）ができて面白かった。

問 実習期間は1週間でしたが、期間的にはどうでしたか。（長かった、短かった等）

- ・ ちょうどよかった（たくさんいい仕事できてよかった。）

（利用者の保護者からのコメント）

- ・ 今回の体験で少しでも社会を知ること、苦手な事こと知ることができ、作業する時に必要なこと、失敗体験、言葉の理解、思い込みにも気づいてくれたことだと思っています。
5日間と短い体験でしたが、上手にできたことを褒めてもらえて嬉しかったようです。良い体験ができた感謝しています。
- ・ もっとたくさんの人に「発達障害者インターンシップ事業」を知ってもらい、数人で一緒にできたら、仲間も出来てよかったと思います。

2. 発達障害者余暇支援事業

各回の活動状況と利用者の意識等の変化

| 回数 | 実施日 | 参加人数 | 実施内容 |
|----|-----------|------|---------------|
| 1 | H27.4.18 | 8人 | テーマトーク、ミニゲーム |
| 2 | H27.5.30 | 6人 | テーマトーク、調理実習 |
| 3 | H27.6.20 | 7人 | 自己紹介、カラオケ |
| 4 | H27.7.11 | 7人 | テーマトーク、ミニゲーム |
| 5 | H27.8.29 | 4人 | テーマトーク、Wiiゲーム |
| 6 | H27.9.26 | 4人 | カラオケ |
| 7 | H27.10.17 | 6人 | レクレーションゲーム |
| 8 | H27.11.19 | 3人 | テーマトーク、ミニゲーム |
| 9 | H27.12.12 | 4人 | クリスマス会 |
| 10 | H28.1.23 | 4人 | テーマトーク、お菓子作り |
| 11 | H28.2.27 | 5人 | カラオケ |
| 12 | H28.3.12 | 6人 | テーマトーク、ミニゲーム |

支援スタッフの目から見た、利用者の意識の変化

- ・ 継続して参加している利用者が多いため、他の利用者やスタッフに対して安心感が生まれ、他者に対して自然な気遣いがみられるようになってきており、就労の場面でも応用できるスキルであると考えられる。
- ・ 余暇支援事業に参加する前と参加した後のストレスチェックの結果は、参加者のストレスを軽減する結果となっており、充実した休日を過ごすことができていると考えられる。

平成27年度佐賀プライドプログラム 実施報告書

1 事業の概要

| | |
|---------------|--|
| (1) 実施団体名 | 心と発達相談支援 another planet (A S S R株式会社) |
| (2) 実施期間 | 平成27年11月～平成28年 3月 |
| (3) 対象者・人数 | 発達障害のある県内の高等学校の生徒であり、以下の2つの条件を満たす生徒12名 ・医師から発達障害(LD/ADHD/自閉症)の診断を受けている ・在籍する高等学校の在学証明を得ている |
| (4) 全体目標の達成状況 | 検査も含め個別に3～5回、グループで3回のセッションを行い、障害告知・自分の障害のタイプ・自分の長所/短所についての学習や、感情の分析などに取り組んだ。生徒たちの学習の時間帯には、保護者にスタッフが1名つき、学習内容についての説明や、保護者からの相談に応じた。対象者のうちの1名は、高校3年生であったため、受験のためにグループ活動には参加できず、個別でのセッションのみとなったが、高校側との連携もとることができ、卒業・進学につなげることができた。また、別の発達障害のメンバーとの余暇(服巻智子主催)への参加を呼び掛け、希望者数名が参加した。 |
| (5) 実施体制 | 心と発達相談支援 another planet 臨床発達心理士4名 |
| (6) 実施場所 | 心と発達相談支援 another planet (武雄市武雄町昭和6-5あさひビル2F) |

2 支援の実施結果

| 区分 | 目標の達成状況、実施実績(回、人)、評価指標(実施前後)、事業の効果(指標の変化量) 等 |
|------------|---|
| (1) 自己認知支援 | グループ指導外に、検査(ADOS)を行い、生徒の正しい特性の理解を行った。障害告知をまだ受けていない生徒に対しては、グループ指導前に、個別のセッションを行い、障害告知を行った。 グループ指導においては、障害の説明、自分の長所と短所、周囲の人から自分がどう見えているかなどを |

| | |
|----------------|---|
| | 考え、話し合った。(計2回) |
| (2) ライフスキル向上支援 | グループ指導外に、検査 (Vineland-II) を行い、現在の状況の把握をした。 |
| (3) 感情コントロール | グループ指導外に、検査 (子どもの行動チェックリスト) を行い、現在の状況の把握をした。 グループ指導において、CBT を活用した The CAT-Kit という教材を用い、自身の感情 (喜び・怒り) についての分析を行った。(計1回) |
| (4) 進路選択支援 | 個別のセッションで、3年生に対応した。 |